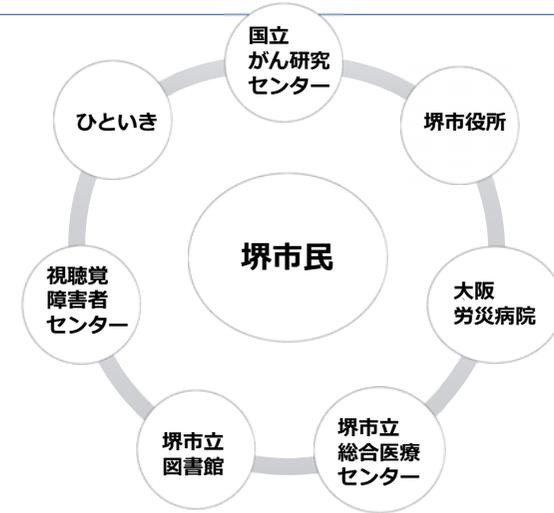


第5回

いつでも、どこでも、だれでもが、
がんの情報を得られる地域づくりの第一歩

連携プロジェクトを進める中で
見えてきたもの
これからの可能性～堺市の取り組み

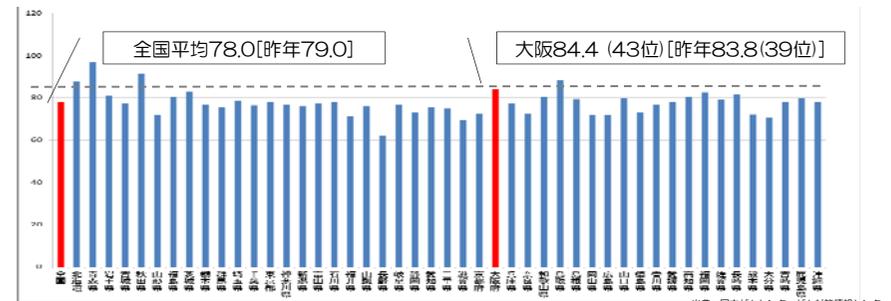
がん情報普及のための
医療・福祉・図書館の連携プロジェクト



行政の立場から

堺市 健康医療推進課

都道府県別悪性新生物 75歳未満年齢調整死亡率（男女計）
(H27年人口動態調査結果)



悪性新生物で死亡数が多い部位は？（堺市）

	1位	2位	3位	4位	5位	
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓	大腸は、結腸と直腸を合わせた数
女性	肺	大腸	膵臓	胃	乳房	
男女計	肺	大腸	胃	肝臓	膵臓	

平成27年人口動態調査結果

堺市の主な死因別死亡割合
(平成27年人口動態調査結果)死亡数:8,130人



堺市のがん対策



がん検診総合相談センターの設置

年中無休 9時から20時まで

- ・がん検診はどこで受診できるの？
- ・がん検診にはいくらかかるの？
- ・集団検診の予約がしたい。
- ・がんに関する相談をしたいなどの相談に対応！



がん検診の無償化

平成30年度～2年間の期間限定で実施
5つのがん検診

【胃・肺・大腸・子宮・乳がん】

「がん検診受診促進強化期間」
としている

堺市のがん検診総合検索サイト

「堺市がん検診総合相談ポータル」オープン

便利な機能が満載です。

- ・がん検診を実施している医療機関の検索
お住いの区や、検診の種類などの条件で検索
できます。
- ・集団検診の予約
保健センターや地域会館で実施している胃が
ん検診の空き状況の確認や予約ができます。

堺市がん検診総合相談ポータル

検索

<http://www.sakai-kenshin.jp/>

今後も、より便利に皆様にご利用
いただけるようにサイトの充
実を予定しています。

5

堺市のがん検診情報の伝え方の工夫

がん検診情報の伝え方 ①

堺市のホームページでの検診案内

音声読み上げ、
文字拡大・ふりがな

検診案内の音声読み上げなどに
対応

文字の拡大、色の変更、
音声読み上げ、ふりがなに対応

堺市のがん検診情報の伝え方の工夫と 障害のある方への受診体制

がん検診情報の伝え方 ②

がん検診の制度を、情報弱者の方へ伝える手段として、視覚・聴覚障害者センターの協力いただき、がん検診制度案内の「点訳・音訳」を作成。

啓発を行うツールとして、保健センター等で活用している。

がん検診の受診について

ベルデさかいで、障害のある方が受診できる体制を整備 (※要予約)

点訳の一例



公共図書館の立場から

堺市立西図書館

実施機関	受診できるがん検診
堺市立重症心身障害者（児）支援センター ベルデさかい	・大腸がん ・子宮がん

- ・その他、各保健センター及び市内の医療機関で実施するがん検診も受診可能です。
- 事前にそれぞれの実施機関へお問い合わせください。
- ・「がん相談支援センター」でも検診の受診に関しての相談が出来ます。

がん診療連携拠点病院

がん相談支援センターの立場から

堺市立総合医療センター
看護局 がん看護専門看護師
がん相談支援センター がん専門相談員
古谷 緑

堺市立総合医療センター がん相談支援センター



がんのこと、治療のこと、生活のこと、など・・・がん医療にかかわる様々な不安や疑問についての相談をお受けしています。どうぞ、ご利用下さい。

- 受付日時：月曜日～金曜日 9:00～17:00
- 相談方法：面談・電話
- 電話番号：072-272-1199(代表)

直接来院または電話、どちらでもけっこうです
ご都合のよい方法をおえらびください
「がんの相談がしたい」と
お伝えいただくとスムーズです。



正面入口を
入って右側
12番まで
お進み下さい



「がん相談支援センター」で 相談できること



「がんと言われて心配です」
「家族にどのように話せばいいですか？」
「がん治療はどのようなものですか？」
「治験はどのようなものですか？」
「がん治療と仕事の両立はできますか？」
「セカンドオピニオンを受けるためには？」
「がん治療にかかる費用は？」
「緩和ケアって？」
「介護保険を申請したい」
「在宅医療を受けるためには？」

連携をはじめてから気づいた視点・・・

「がん相談支援センター」で相談できること

病院で渡され
た書類が読め
ません・・・



耳が聞こえにく
いので、医師や
看護師の話が分
かるか心配

皆さんにあった
方法を一緒に
考えましょう。

他にもこんなことはありませんか？

ふだんは、車椅
子を使っていま
すが、病院では
どうすればいい
ですか？



検査や治療を受け
るときに、介助者
は必要ですか？

連携をはじめてからできたこと・・・

『視聴覚障害のある患者さんへの対応』を、
全体で考えられる 研修を企画・運営

障害者差別解消法施行初年度研修
あなたの病院は対応できていますか？

視聴覚障害のあるがん患者さんへの対応について考えてみよう

平成 29年 2月25日(土) 14:00~16:00

会場：堺市立健康福祉プラザ 2階研修室

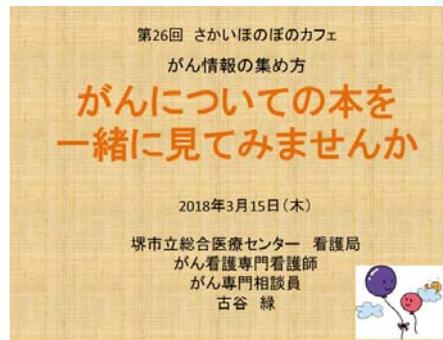
参加
無料

平成28年4月より、障害者差別解消法が施行され、医療機関でも障害のある人に対して適切な対応をとることがより一層求められています。ただ、医療機関は特定の障害に関する専門機関ではないため、対応のノウハウがなく対応に苦慮している機関も多いのではないのでしょうか？
堺地域では、平成26年度より公共図書館と医療機関、福祉機関、行政及び国立がん研究センターの多分野機関が協働し、視聴覚障害者に対する、がん情報普及のための情報提供講座を開催してきました。これまでの活動の中で、視聴覚障害のある方たちに対して、各機関でどのように支援ができるのか、蓄積できたノウハウを皆さまと共有し、よりよい支援につなげていきたいと考えています。
多くの方のご参加をお待ちしています。

連携をはじめてからできたこと・・・

公共図書館との協働：病院で開催する患者・市民を
対象とした講座等への協力依頼

西図書館より、講座のテーマに関連する書籍をたくさん持ってきてもらう。
講座の後に自由に閲覧してもらう機会を設けた。



市民健康講座のご案内

がんの情報とお金

3大死因であるがんに関する知識の習得方法や治療費をはじめとするお金について看護師・医療ソーシャルワーカーがお話します。

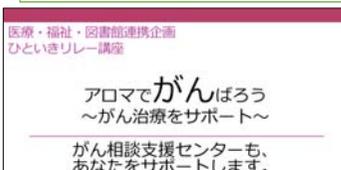
日時 2018年3月8日(木) 14:00~15:30(13:30開場)

会場 堺市立総合医療センター 1階ホール
(堺市西区家原寺町1丁目1号)
JR阪和線津久野駅下車徒歩5分

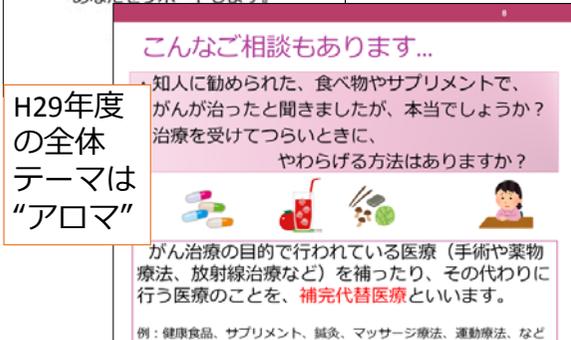
連携をはじめてから続けていること・・・

【年に1回は協働団体が必ず集合】

拠点病院は、がん相談支援センターに関するミニレクチャーと個別がん相談コーナーを担当



がん相談支援センターの紹介と、相談員の視点より、全体テーマに関連する知識や情報を紹介



健康福祉プラザ
点字図書館の立場から

堺市立健康福祉プラザ
視覚聴覚福祉プラザ
原田 敦史

見えない人が「大きな病」になるということ

見えない状態で、大きな病になった場合
情報を集めることができるでしょうか。



我々の調査によると、点字図書館登録している視覚障害者も登録していない視覚障害者も**テレビ・ラジオの利用は一般の人と同様に高い**。また「**人づて**」の情報は、**一般の人より特に高いが**、点字図書館に登録していない視覚障害者は、「友人・知人」の割合が低いというデータがでました。
一般に比べると書籍、ネット等の媒体は軒並み低く、点字図書館に登録していない視覚障害者は特に低いことが明らかとなっています。

視覚障害者の
電子図書館
「サピエ」

点訳は12696
タイトル

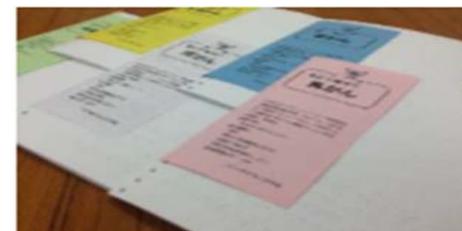
音訳は6962
タイトル

情報が足りない視覚障害者への情報提供

多媒体でより早い情報提供へ。

がんの冊子等 堺市立健康福祉プラザ 視覚聴覚障害者センターとの共同作業連携

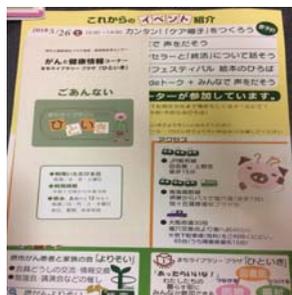
冊子	点字	音訳	点字	音訳
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140



連携して発行する資料の
即時点訳化・音訳化

ホームページからの
情報発信

医療図書コーナーからの地域医療情報発信



地域のがん患者会と
連携し共同でイベント開催。
活動の一環でケア帽子
の作成や寄贈も実施。

がんセンターの資料
や堺市内の医療情報を
随時更新して提供。
自由に閲覧できる体制
となっている。

コーナーで勉強会
を開催。図書の一部は
公共図書館より借受。
書棚を行政が実施する
地域でのイベントに貸出し。

事業の一環で積み上げたものを継続

施設イベントや当事者向けイベントで情報発信



がん検診体験や、お祭りを利用
したがん相談会の実施。病院・
図書館・行政が連携して実施。



連携プロジェクトを通して気づいたこと...

- 今まで私たちが発信していた健康情報の媒体などに、配慮が足りなかったことに気づいた。
- 情報弱者に対して作成した媒体は、すべての市民にとってわかりやすいものになった。
- 点字図書館として行っている情報提供に偏りがあることに気づいた。
- 連携することで、より信頼性の高い媒体の作成ができた。
- 医療に関する情報を、当事者目線・日常の場所で発信できるようになった。
- それぞれの強みを生かして、情報発信ができるようになった。
- 気軽に相談して解決できる風土ができた。